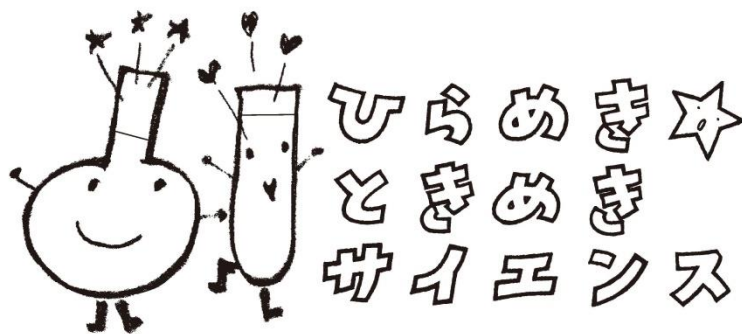


ことばを美味しく研究しましょう

—お料理サイトで言語学入門—

2017年8月10日 筑波大学

予習用資料



～ようこそ大学の研究室へ～

K A K E N H I



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

1. はじめに

みなさんは英語の勉強をしていて、どういうところが難しいと感じますか。あるいは、どういうところがおもしろいと感じますか。おそらく、難しい、おもしろい、と感じる時は、母語（ぼご）である日本語との違いを感じた時ではないでしょうか。母語、とは **native language** といい、生まれてから自然に覚えた言語のことを指します。みなさんにとっては日本語のことですね。英語にはあるけど日本語にはない、とか、英語にはないけど日本語にはある、という事柄を発見した時、外国語である英語の難しさやおもしろさを感じ、英語を一生懸命勉強しようと思うのではないのでしょうか。そして、それは言語を研究する入り口になります。

この講座では、「前置詞」にこだわって、英語と日本語の違いを“美味しく”考えながら、言語研究の最前線をのぞいてみようと思います。前置詞というのは、**in** や **on** のことです。例えば、次のように使いますね。

- (1) **a. John is sleeping in my room.**
 b. The book is on the desk.

前置詞はまさしく英語にはあって、日本語にはないものです。つまり、英語と日本語の違いのひとつですね。そう、これは研究のテーマになるのです。

そして、“美味しく”というのはどういうことかといいますと、お料理のタイトルを取り上げようということです。おもしろいことに、日本語のお料理のタイトルには日本語では使わないはずの英語の前置詞が出てくることが多いのです。例えば、次のような例にみることができます。お料理の写真もいっしょにご覧ください。

- (2) **a. チーズインハンバーグ**



- b. ビーフウィズライス**



「チーズインハンバーグ」や「ビーフウィズライス」は日本語のお料理の名前です。アルファベットではなくカタカナになっているとはいえ、インやウィズのような英語の前置詞が使われていることがわかります。日本語にないはずの前置詞が使われている、とても不思議な例です。8月10日の講座では、これを可能にしている言葉の仕組みをみなさんといっしょに実習を通して解き明かしていきたいと思います。この予習資料はその準備体操のようなものです。もしかしたら、わからないところもあるかもしれませんが、大丈夫です。わからないところがあっても、それでいいのです。いくつか「課題」も出しておきますから、心と体をほぐしておいてください。そして、おなかをすかして、筑波大学にいらしてください。

2. 英語の前置詞を見てみよう

お料理のタイトルを検討する前に、英語の前置詞の基本について少し確認しておきましょう。次にあげる語はみんな前置詞と呼ばれるものです。

(2) **in, on, at, of, to, by, for, with, into, onto, from, about, beside, behind, through...**

何で「前置詞」と呼ばれるのでしょうか。「前置詞」という漢字をよくよく見れば、「前に置く詞（ことば）」と読めます。そうなのです。前置詞とは、ある語の前に置くことばなのです。そして、その語とは、名詞、と呼ばれるものです。

例えば、(1a) では in が my room という名詞の前に置かれています。(1b) では on が the desk という名詞の前に置かれています。そして、どちらの場合も in my room, on the desk というまとまった表現を作り上げています。つまり次のようにいえます。

(3) **前置詞は、名詞の前に置かれて、まとまった表現を作り上げる。**

それでは、このまとまった表現とは文の中で一体どのような働きをしているのでしょうか。それを考えるには次のような例文を見るといいです。

(4) **John saw a man with a telescope.**

(4) では with という前置詞が使われています。with は a telescope (望遠鏡) という名詞の前に置かれています。この文は案外難しい文です。と、いいますのは、実はこの文には 2 通りの解釈が可能なのです。その 2 通りの解釈、おわかりでしょうか。もしテストで、(4) を日本語に訳しなさい、という問題があったら、正解は 2 つあることになるのです。さあ、2 つの正解をあててみましょう。

はい、それでは正解です。(4) には次の 2 つの日本語訳が可能で、どちらも正解です。

- (5) a. ジョンは望遠鏡で男を見た。
b. ジョンは望遠鏡を所持している男を見た。

(5a) の正解から見ていきましょう。(5a) の訳で、with a telescope に相当する日本語の部分は「望遠鏡で」ですね。「望遠鏡で」ジョンが男に何をしたかといえば、見た (saw)、という行為をしたといっています。このことは文法用語を用いて、with a telescope は動詞の saw を修飾している、といえます。したがって、前置詞のまともりは次のような働きをすることができます。

- (6) 前置詞のまともりは、動詞を修飾する。

次に、(5b) の正解を考えてみましょう。(5b) の訳で、with long hair に相当する日本語の部分は「望遠鏡を所持している」です。(5b) では、どんな男を見たかという望遠鏡を所持している男だ、ということです。男は男でも望遠鏡を所持している男、ということです。つまり、with a telescope は名詞の man の意味内容を限定しているのです。このことは文法用語を用いて次のようにいいます。

- (7) 前置詞のまともりは、名詞を修飾する。

このように、前置詞のまともりには 2 つの働きがあります。ひとつは、(6) にありますように、動詞を修飾する働きです。もうひとつは、(7) にありますように、名詞を修飾する働きです。この 2 つの働きを持っている点が前置詞のまともりの最も基本的な特徴です。次の(8) の例も 2 つ正解がある例です。少々物騒な意味になりますが、訳し分けてください。

(8) John hit a man with a stick.

次の文にも正解が 2 つありますね。

(9) John sold a doll on the table.

(8)と(9)の訳は【課題 1】にしておきましょう。

【課題 1】(8)と(9)を日本語に訳してください。

答えは講座の中でお話します。(9)は「変な意味だなあ、実際にはそんなことありえないよ」というような訳になるかもしれませんね。注目してほしいのは、文法的かどうか、ということと、実際に使う状況があるかどうか、ということは別のことだということです。この区別が理解できると、もう言語学者です。

ここでもうひとつ課題です。

【課題 2】 前置詞のまとまりを含んだ文で、正解が2つある文を作りなさい。

みなさんも(4)、(8)、(9)のような文を作ってみてください。

3. お料理タイトルの中の前置詞の働き

2節では、前置詞のまとまりには(6)と(7)の2つの働きがあることを見ました。今回の講座ではこの中の(7)、つまり、**名詞を修飾する働き**に焦点をあてます。もう一度、次の例文で名詞を修飾する働きを確認しましょう。修飾される名詞には2重線を引いてあります。前置詞のまとまりにはかっこを付けてあります

- (10) a. a book [on the desk]
 b. a girl [with an umbrella]
 c. a present [for John]
 d. a letter [from Nancy]
 e. a discussion [about preposition]

難しい単語がいくつかありますね。(10a)のdiscussionは「討論、議論」、prepositionは「前置詞」という意味です。あと知らない単語があったら辞書を引いて、これらを日本語になおしてみてください。次のようになりますね。

- (11) a. 机の上の本
 b. 傘を持った少女
 c. ジョンへのプレゼント
 d. ナンシーからの手紙
 e. 前置詞に関する議論

ここで、(10)と(11)を見比べてみるとおもしろい違いがあることはわかります。(11)の訳について、英語の前置詞を訳した部分をかっこに入れて、修飾している名詞の部分に2重線を引いてみると、次のようになります。

- (12) a. [机の上の] 本
 b. [傘を持った] 少女
 c. [ジョンへの] プレゼント
 d. [ナンシーからの] 手紙
 e. [前置詞に関する] 議論

おもしろいことに、英語と日本語ではかつこと 2 重線の位置が逆になっていることがわかります。名詞を修飾する前置詞のまとまりを日本語になおすと、なぜか名詞の左側に来てしまうのですね。その結果、修飾される名詞が英語では左側、日本語では右側になってしまいます。かつこと 2 重線の順序の違いは、現代言語学において英語と日本語の重要な相違点として大変注目されているのです。

練習として、ちょっと難しい表現に対しても上でしたことと同じことをしてみましょうか。それを【課題 3】にしましょう。高学年の人はがんばってやってみてください。

【課題 3】(13) の英語を日本語に訳してください。そして、(12) の英語とその日本語訳にかつこと 2 重線を引いてみてください。

- (13) a. **an invention by John**
 b. **a gift to Nancy**
 c. **a computer of use**

答え合わせは講座の中でやってみましょうね。いまできなくても全然心配いりません。

それでは、いよいよお料理タイトルを見ていくことにしましょう。日本語でもお料理タイトルにおいては前置詞が使われることを (2) の例で見ましたね。もう一度ここに (14) としてあげます。

- (14) a. チーズインハンバーグ



- b. ビーフウィズライス



チーズインハンバーグはもうおなじみのお料理ですね。ビーフウィズライスには熊本発のご当地名物メニューのようです。私はまだ食べたことがないので、研究のためと称して、熊本にいったら必ず食べてこようと思っています。他にも前置詞を使ったお料理名でよく見かけるものがあります。(15)がそれです。

(15) ビーンズオントースト



このお豆とトーストのコラボのお料理は、イギリスでよく食されているようで、この写真もイギリスで私が撮ったものです。オックスフォード大学で開催された学会に出席するために2014年にイギリスを訪れた際、現地のレストランで食べた「ビーンズオントースト」の写真です。日本でもこの料理名で最近よく食べられていて、それなりに定着していると考えていいようです。ここで問題です。

【課題4】 次のお料理タイトルにかっこと2重線を引いてください。

- (16) a. チーズインハンバーグ
 b. ビーフウィズライス
 c. ビーンズオントースト

(16) はこれまでに見てきた前置詞が使われている日本語のお料理タイトルです。これらの料理名において、前置詞のまとまりはどこでしょうか。そして、修飾される名詞はどこでしょうか。かっこと2重線で示してください。正解は何か、と考えすぎないで、どういうお料理を指しているのか写真も見ながら考えて、かっこと2重線の部分に分けてみてください。当日の講義もこのあたりからいよいよ本題に入ってきますよ。

(16) に関して、もうひとつ課題を出しますね。

【課題5】 (16)を、前置詞を使わないお料理タイトルにしてください。

(16) にはイン、ウィズ、オンという前置詞が使われていますが、これらを使わないとするとどういう名前が考えられますか。みなさん、創作してください。できるだけ

魅力的なタイトルを付けてくださいね。

ここで、みなさんの中にはインターネットにあった本講座の案内の中で、私が「みなさんは「チーズインハンバーグ」と「ハンバーグインチーズ」は同じメニューだと思いますか。それとも、違うと思いますか。」と問いかけていたのを思い出している人もいるかもしれません。実際に「ハンバーグインチーズ」というタイトルは使われています。みなさんはこのお料理名でどんなお料理を想像しますでしょうか。【課題6】はこれに関するものにしましょう。

【課題6】 チーズインハンバーグとハンバーグインチーズは同じお料理だと思いますか、それとも違うお料理だと思いますか。また、「ハンバーグインチーズ」という料理名をかつこと2重線の部分に分けてください。

最後の課題です。これもインターネットの案内にあった問いです。

【課題7】



このアスパラと生ハムを使ったお料理、英語の前置詞を使って何という名前にしましょうか？中に温泉卵も埋もれています。

「アスパラ イン 生ハム」？それとも「生ハム オン アスパラ」？ジャパニーズイングリッシュでまったくかまいません。

絵文字もスペースも自由に使って、楽しくおいしそうで、魅力的な名前を付けてみてください。続きは、当日会場で。

どうでしょうか。できる範囲でかまいません。ここまでのところをよく読んで、課題を中心に考えてみてきてください。できなくても、わからなくても、心配いりません。考えてくるだけで講義と実習にスムーズに入っていけて、当日楽しさが倍増しますよ。

4. 当日のスケジュール

当日のスケジュールについて簡単に説明しておきます。まず、以下にインターネットの案内にのせておいたスケジュール表を再掲しておきます。

2017年8月10日(木)

8:30～ 9:00	受付
9:00～ 9:15	開会式、科研費の説明
9:15～ 10:00	講義 ① “beans on toast”ってどんなお料理？
10:00～10:15	休憩
10:15～11:00	講義 ② おもしろい料理名 —それって間違った英語？—
11:00～11:10	休憩
11:10～11:50	ディスカッション・質問タイム
11:50～13:00	昼食・交流会
13:00～13:15	実習説明
13:15～14:15	実習 ① 言語データを分析しよう① —お料理の名前をあててみよう—
14:15～14:30	休憩
14:30～15:15	実習 ② 言語データを分析しよう② —お料理に名前をつけてみよう—
15:15～15:45	休憩・ティータイム
15:45～16:30	ディスカッション・質問タイム
16:30～16:50	未来博士号授与式、アンケート用紙記入
16:50～17:00	閉会式

内容は午前と午後で大きく分かります。午前中の講義では、この予習資料の7つの課題を検討しながら、お料理名にでてくる前置詞表現について言語学的に理解してみようと思います。データももっと増やします。ピコ太郎氏の「カナブンブーンでもエビインビン」にも言語学のメスを入れてしまいます。これにも「イン」が入っていますからね。

午後はコンピュータールームで実習です。実際に前置詞が入った料理タイトルをインターネットで検索したり、お料理に名前を付けたり、お料理を見てその名前をあてたり、いろいろと作業をします。中にはゲーム感覚で行うものもあります。そして、その結果を午前中に勉強した言語学の知識を使ってみんなでいっしょに分析してみます。名前を付けるときも、名前をあてるときも、私たちがこんなことを無意識的に行っているのか、ときっと驚きます。でも、それは、言語学を知っているからこそわかる驚きなのです。そのことにもきって驚くはずです。

当日は私以外に多くの教員や大学院生・学類生が参加します。一部ご紹介します。

- ・小野雄一（おの・ゆういち）（筑波大学准教授）
- ・山村崇斗（やまむら・しゅうと）（筑波大学助教）
- ・長野明子（ながの・あきこ）（東北大学准教授）
- ・若松弘子（わかまつ・ひろこ）（筑波大学大学院）
- ・納谷亮平（なや・りょうへい）（筑波大学大学院）
- ・本多正敏（ほんだ・まさとし）（筑波大学大学院）

英語のこと、日本語のこと、コンピューターのことはもちろん、大学のこと、研究のことなど、休憩時間やティータイムを使っていろいろと質問してください。今後講座のホームページも立ち上げて、おすすめの本やその他の資料もお知らせしていくつもりです。それについてはメール等でまたご案内いたします。

みなさんが筑波大学にいらっしゃるのを楽しみにお待ちしております。